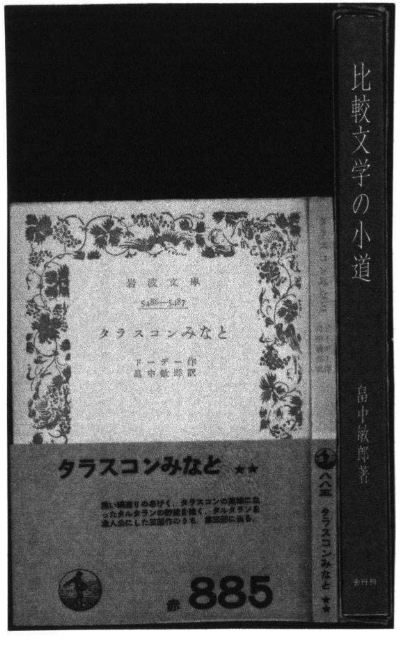畠中敏郎（はたけなか としお）フランス文學・比較文學者。明治四十年一月十日高知縣生れ（一九〇七―）。昭和二年大阪外國語學校卒。同校教授、天理大學教授等を経て、大阪外國語大學教授となり、四十七年停年退官。譯書に、シャトーブリアン作『アタラ・ルネ』（昭和十二年八月五日岩波書店「岩波文庫」）、アルフォンス・ドーデー作『アルプスのタルタラン』（昭和十四年十二月二十二日白水社。再刊・二十八年六月二十五日岩波書店「岩波文庫」）、ジョルジュ・サンド作『ジェルマンの戀』（昭和二十二年九月十五日養徳社「養徳叢書・外國篇」）、ドーデー作『タラスコンみなと』（昭和二十年九月二十五日岩波書店「岩波文庫」）等。著書『佛印風物誌』（昭和十八年一月四日生活社）、『比較文学の小道』（昭和四十八年一月二十五日大阪・畠中敏郎先生論集刊行会）等。